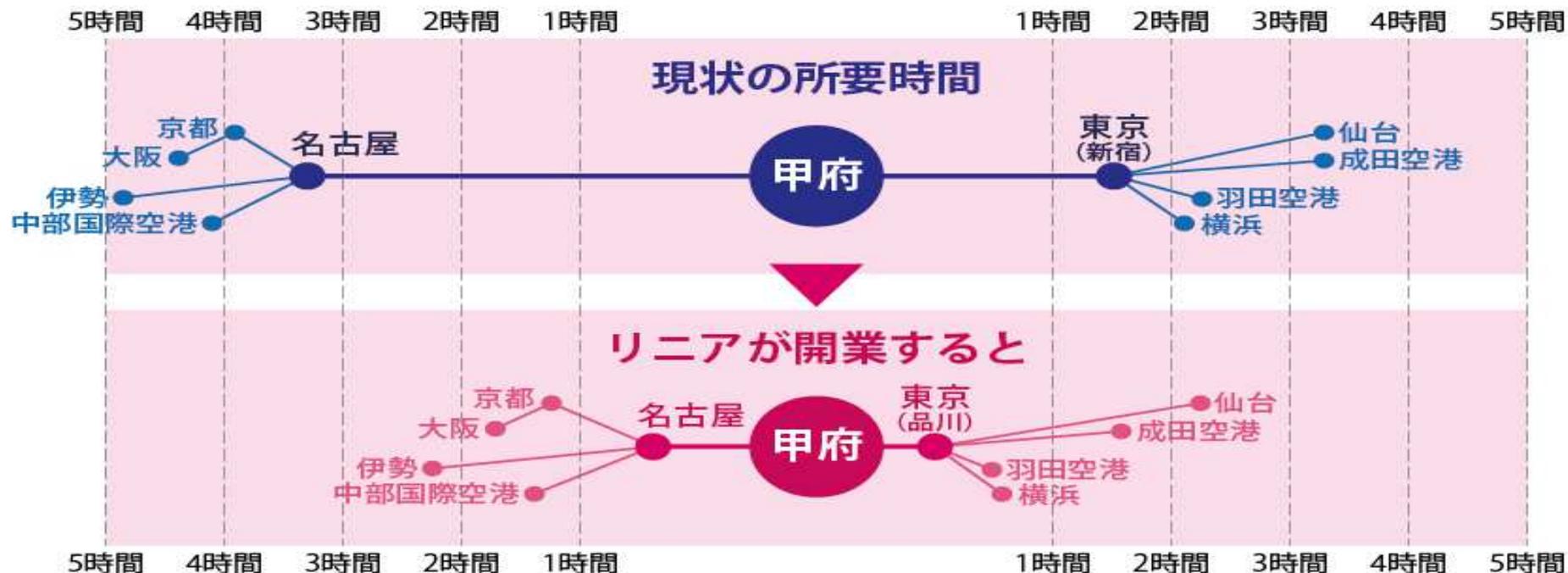


リニア開業による時間距離の短縮

山梨は東京・世界と近くなる

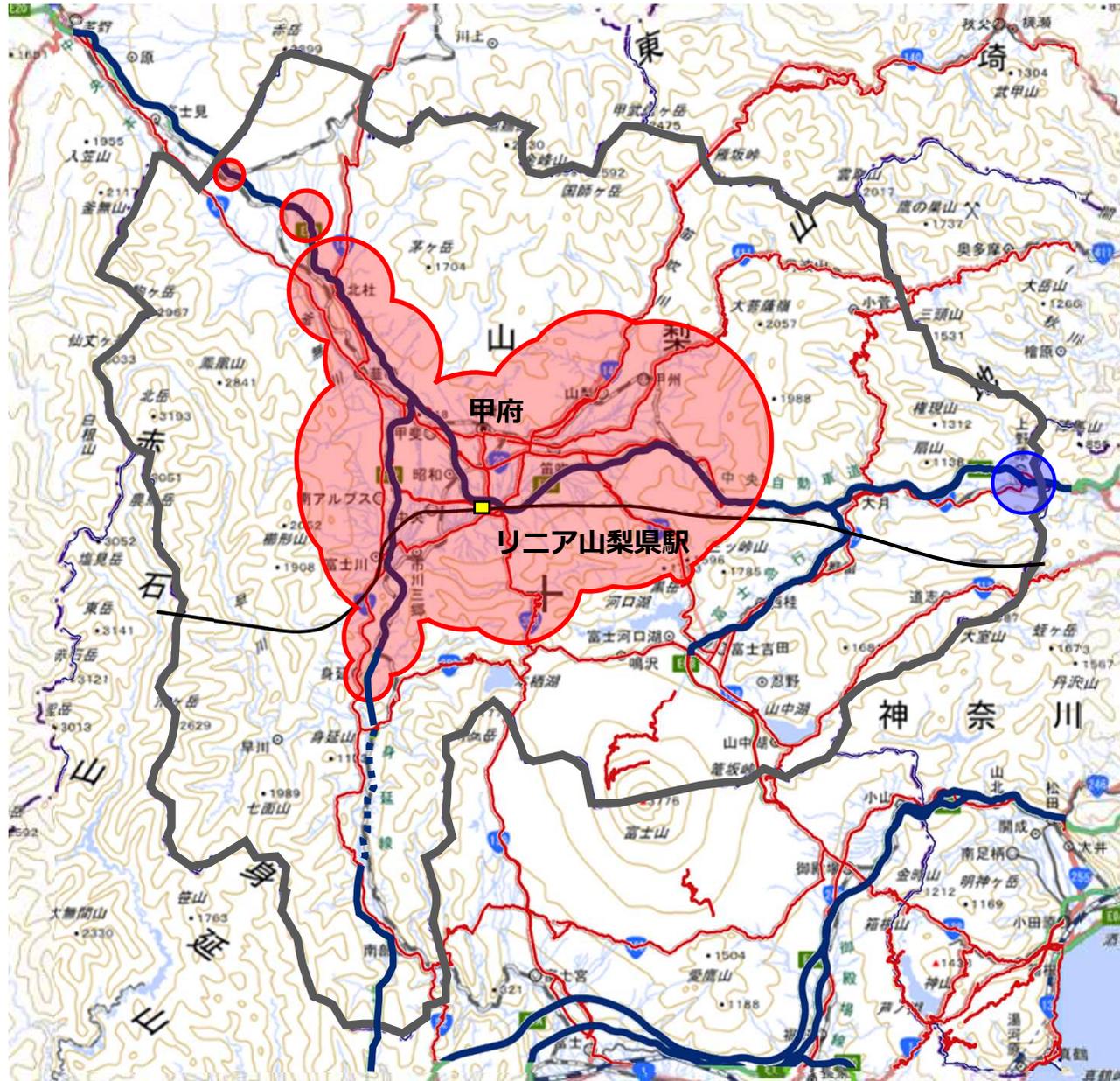


- ✓ 東京都心から約25分・名古屋から約45分
- ✓ 国際空港からのアクセス向上
- ✓ 中京圏・関西圏からの新たな軸

人と情報の交流密度が飛躍的に向上

都心から1時間で到達できる県内エリア

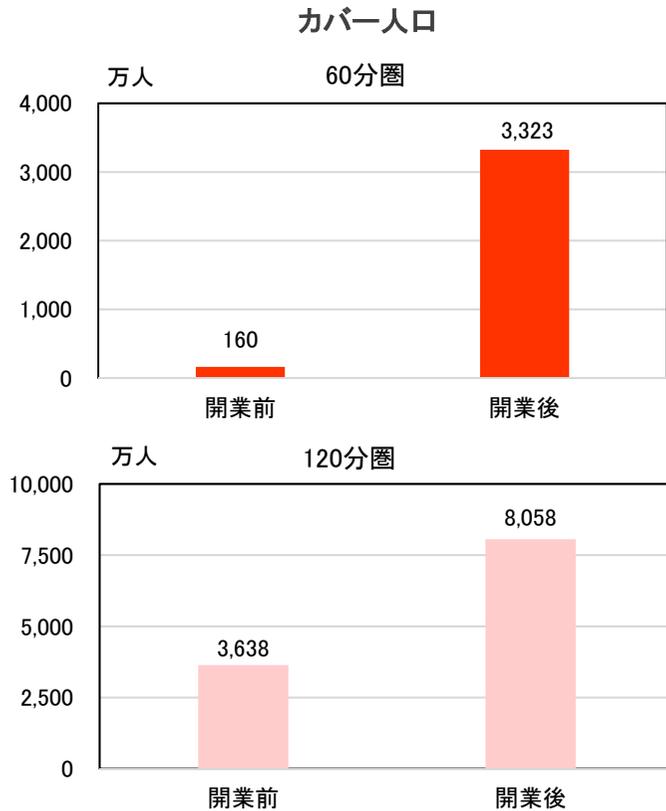
都心から1時間で到達できるエリア



- 高規格幹線道路
- 国道
- 現状：新宿駅から1時間で到達できるエリア
- 将来：品川駅から1時間で到達できるエリア

交流可能な経済的勢力圏の広がり

[リニア山梨県駅起点、鉄道+道路]

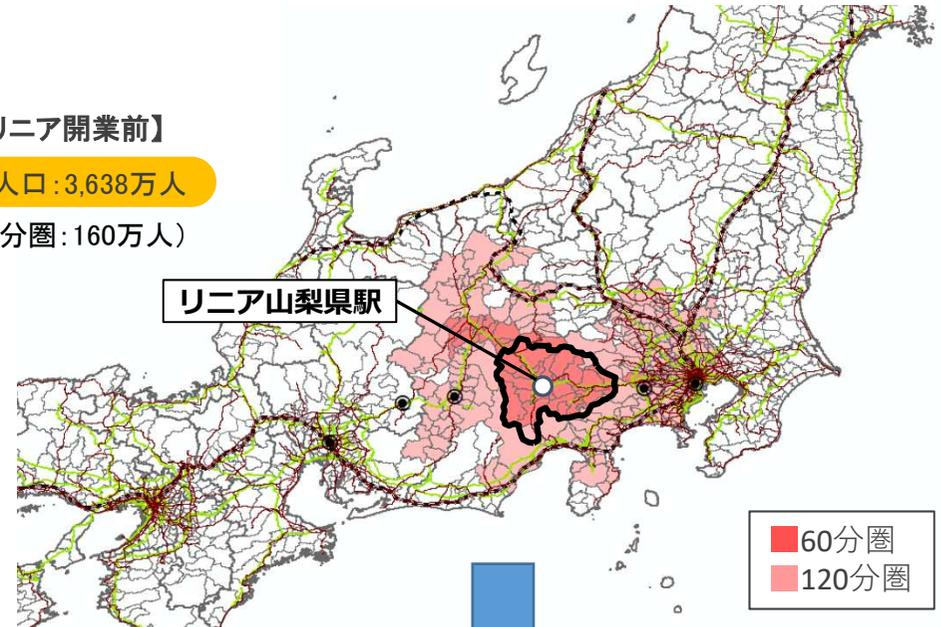


(参考) 1時間・2時間圏域算出の計算条件

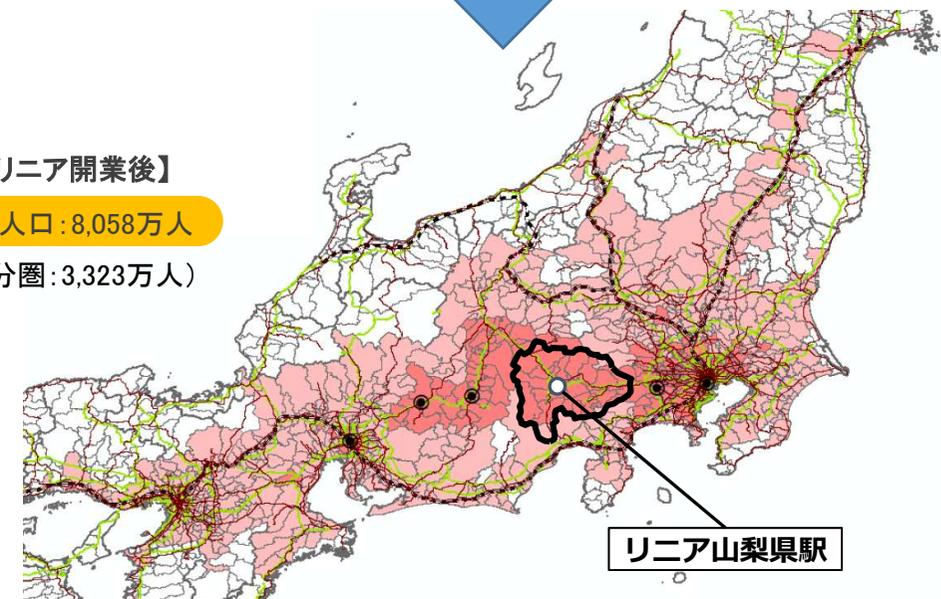
- 自動車利用については、高速道路のIC(双葉IC、甲府昭和IC)を起点とし、1時間・2時間以内のICが当該自治体内にあれば対象とする。最寄りのICが当該自治体でない場合、最寄りのICから当該自治体の行政界までにかかる時間を地図上で測定し、その時間を含めた上で1時間・2時間以内であれば対象とする。
- 鉄道利用については、甲府駅を起点とし、所要時間が1時間・2時間以内の駅が当該自治体内にあれば対象とする。待ち時間、乗換時間は除き、乗車時間のみの合算とする。

出典:国土交通省 スーパー・メガリージョン構想検討会資料より

【リニア開業前】
圏域人口:3,638万人
(60分圏:160万人)

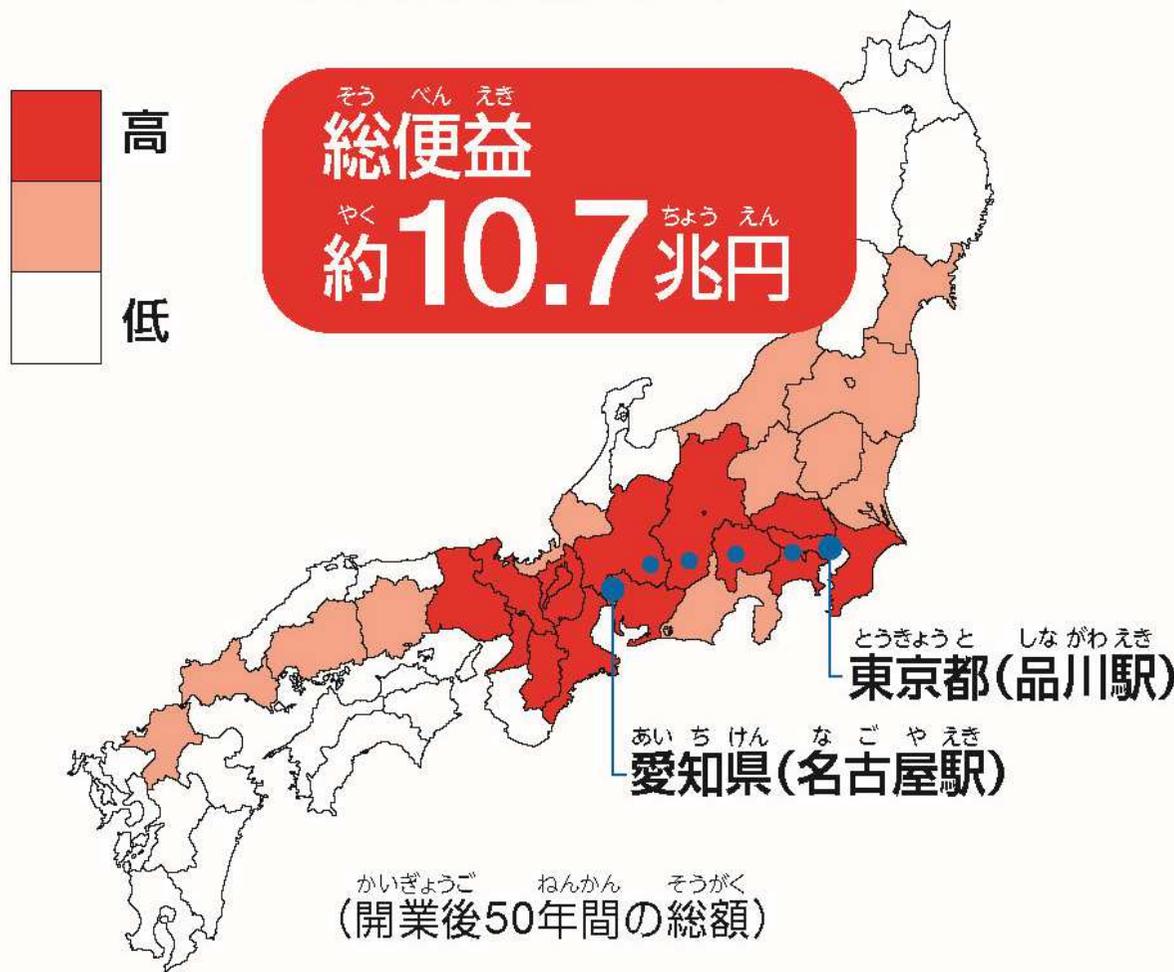


【リニア開業後】
圏域人口:8,058万人
(60分圏:3,323万人)



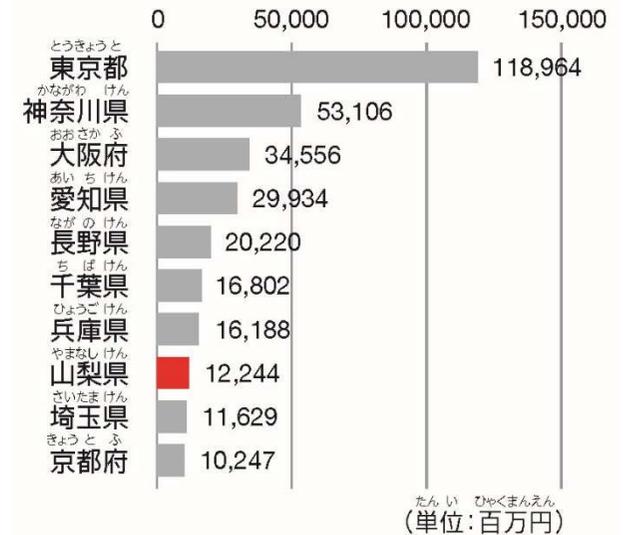
時間短縮による経済効果（便益）

経済効果（便益）の広がり



出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

単年度便益トップ10



世帯あたり便益トップ10



世界を先導するスーパー・メガリージョンの形成

スーパー・メガリージョン構想（国土交通省 令和元年5月策定）より

スーパー・メガリージョン構想の目指す方向性

① 新たな価値を生み出すために

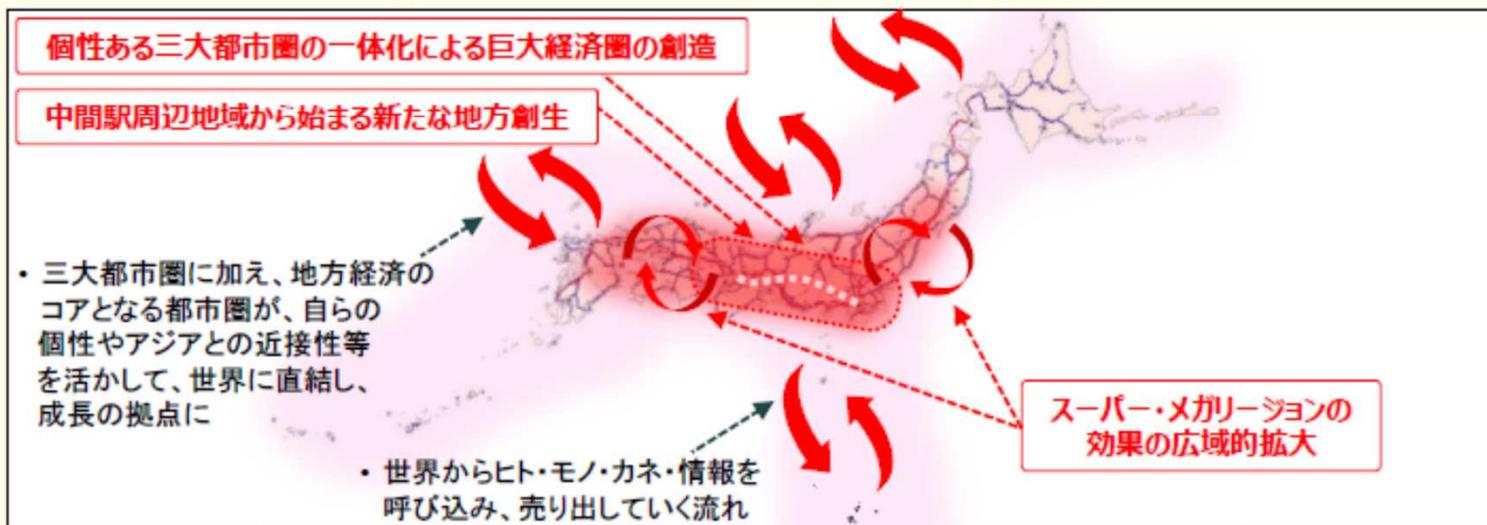
- ・ 知的対流を創出・強化し、国内外の多様な対流を活発化
- ・ 全国各地の個性を結びつけ、価値創造を図る

② 持続可能な社会を形成するために

- ・ 新たなビジネススタイル・ライフスタイルを見据え、様々な社会システムを転換
- ・ 各地域の個性や多様性を重視する価値観の下で、地域の魅力を強化

③ グローバルマーケットで羽ばたくために

- ・ 国内マーケットだけでなく海外マーケットで評価される新たな産業・サービスを創出
- ・ グローバル人材の育成に加え、国内制度や商慣行等の「内なる国際化」を推進



中間駅周辺地域から始まる新たな地方創生

- ◆ 多様な人材が活発に行き交い、クリエイティブな交流が生まれる、新しい知的対流拠点に発展
- ◆ 都市と地方にまたがる新たなビジネススタイル・ライフスタイルを可能とする、新たな居住の選択肢を提供
- ◆ Society5.0の革新的技術と豊かな自然環境が融合した、独自性と先進性の高い地域に発展する可能性

- ✓ 地域の強みを活かした産業を育成し、圏域を越えた産業クラスター同士の連携強化等により、新世代の新たな産業へと発展
- ✓ 自然豊かな居住環境、多様なツーリズム、社会参画のプラットフォーム等の形成により、地域独自のライフスタイルを提供
- ✓ 地域内の主体的取組と地域外の人材の知見を融合すべく、各地域の魅力を大切にする価値観をもつ関係人口を拡大
- ✓ リニアによる東西方向の連携軸に加え、各駅から南北方向に伸びる高速道路との連結性を強化し、対流を活発化

リニア中央新幹線がもたらすインパクト

スーパー・メガリージョン構想（国土交通省 令和元年5月策定）より

1 フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションが生み出す新たなイノベーション

- ・ イノベーション創出による生産性向上が不可欠となっており、フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションを通じた予定調和なき対流の重要性が高まる
- ・ **リニア開通により、交流機会が増加、交流時間が拡大し、新たなイノベーションを生み出す**

2 時間と場所からの解放による新たなビジネススタイル・ライフスタイル

- ・ **リニア開通による時間と場所からの解放が、暮らしに多様な選択肢をもたらす**
 - ・ 男女問わず労働参画し、子育てとも両立しやすい環境
 - ・ 高齢者の社会参画により、豊富な知恵や経験が様々な地域の価値創造に寄与
 - ・ 二地域居住等、都市と地方にまたがる全く新しいビジネススタイル・ライフスタイルの誕生

3 海外からの人や投資の積極的な呼び込み

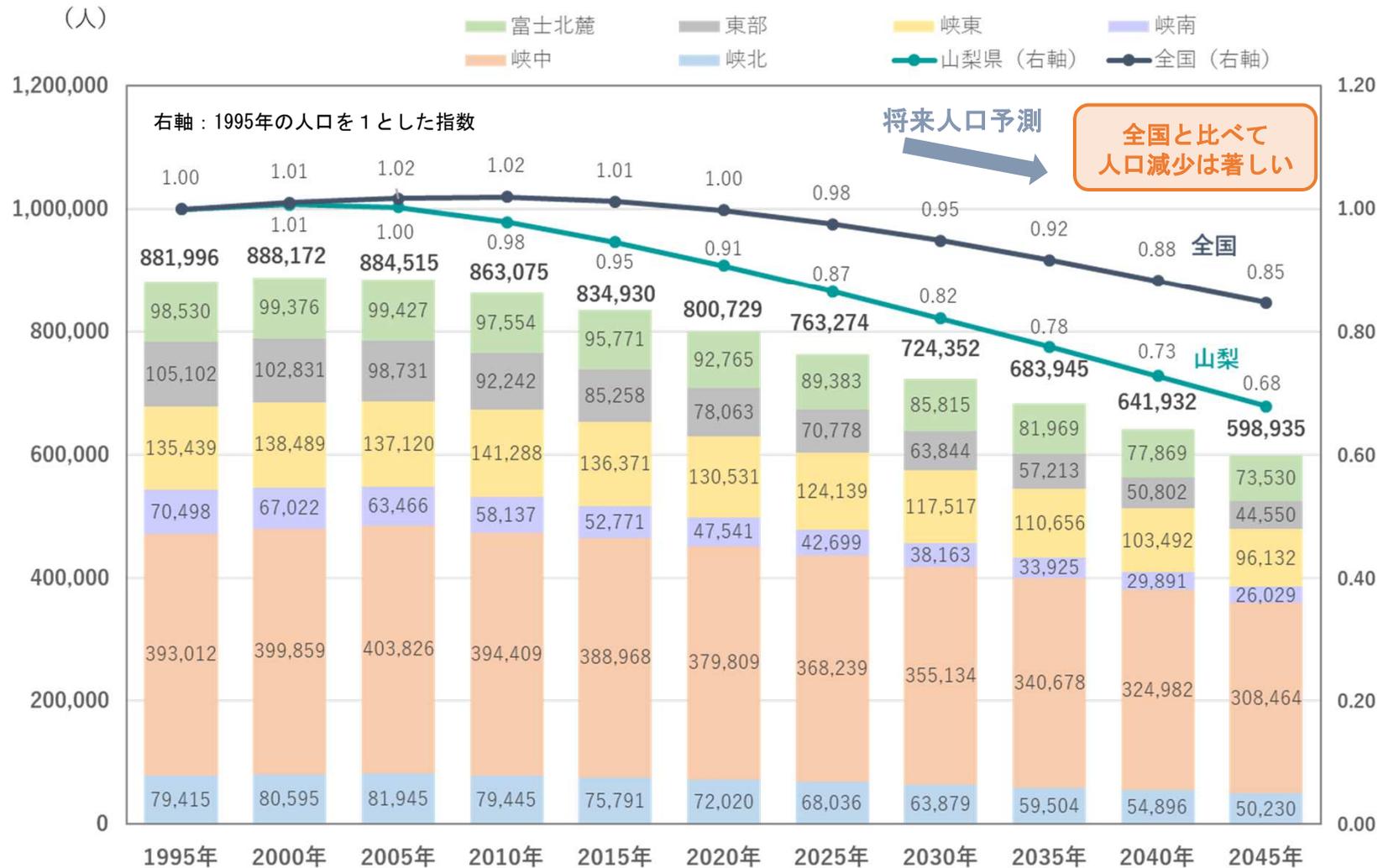
- ・ **リニア開通による三大都市圏の一体化によって、海外からの魅力を向上**
- ・ 高速交通ネットワークとリンクし、訪日外国人旅行者の地方への誘客を更に促進

4 災害リスクへの対応

- ・ **リニアと新幹線・高速道路ネットワークが有機的につながり、多重性、代替性を強化**
- ・ 東京に集中する人口及び企業の中核機能等の分散や、首都機能をはじめとする中枢管理機能のバックアップ体制の整備に寄与する可能性

山梨県の人口①

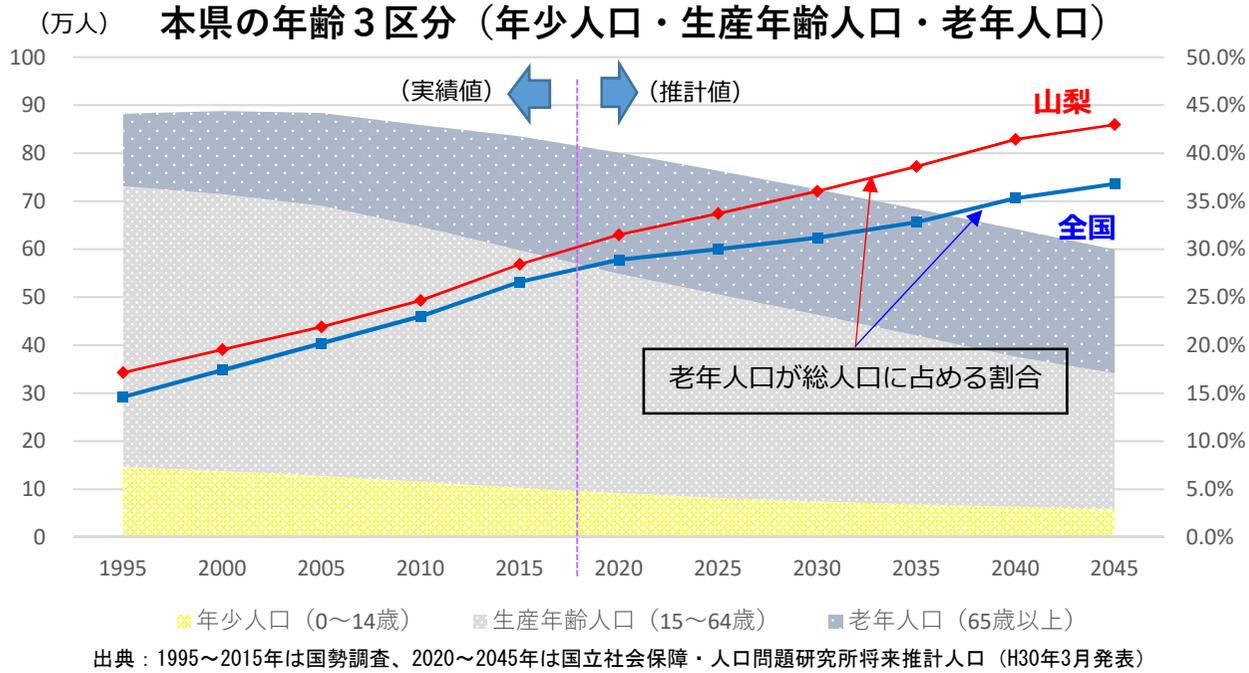
人口の推移



注意：上記は「現状のまま人口が推移するとした場合」であり、山梨県まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの人口の将来展望とは異なる

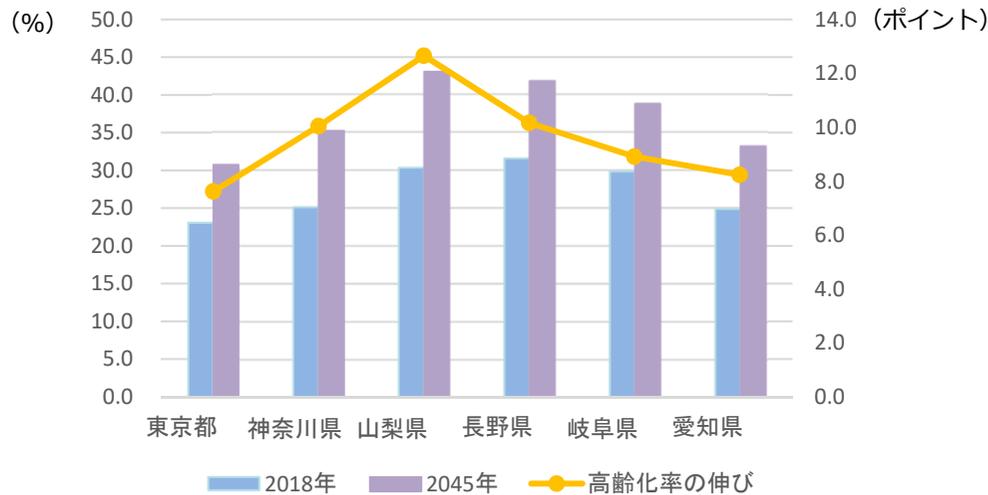
出典：1995～2015年は国勢調査、2020～2045年は国立社会保障・人口問題研究所将来推計人口 (H30年3月発表)

山梨県の人口②



全国平均と比較すると
高齢化が進んでいる

総人口に占める老年人口の割合 (リニア沿線都県)



沿線自治体と比べると
高齢化率も進んでいる

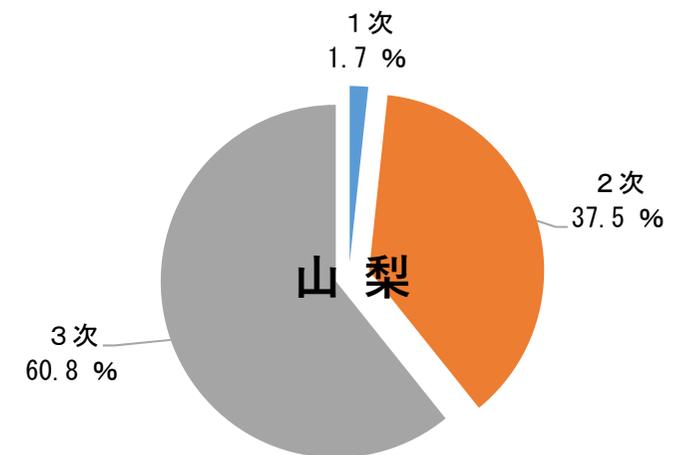
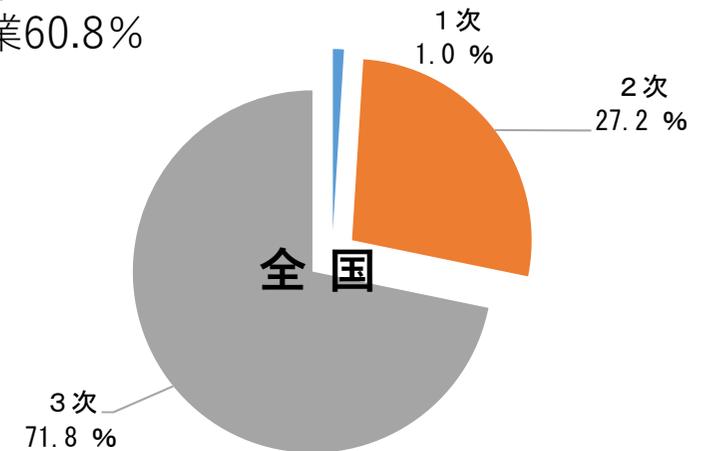
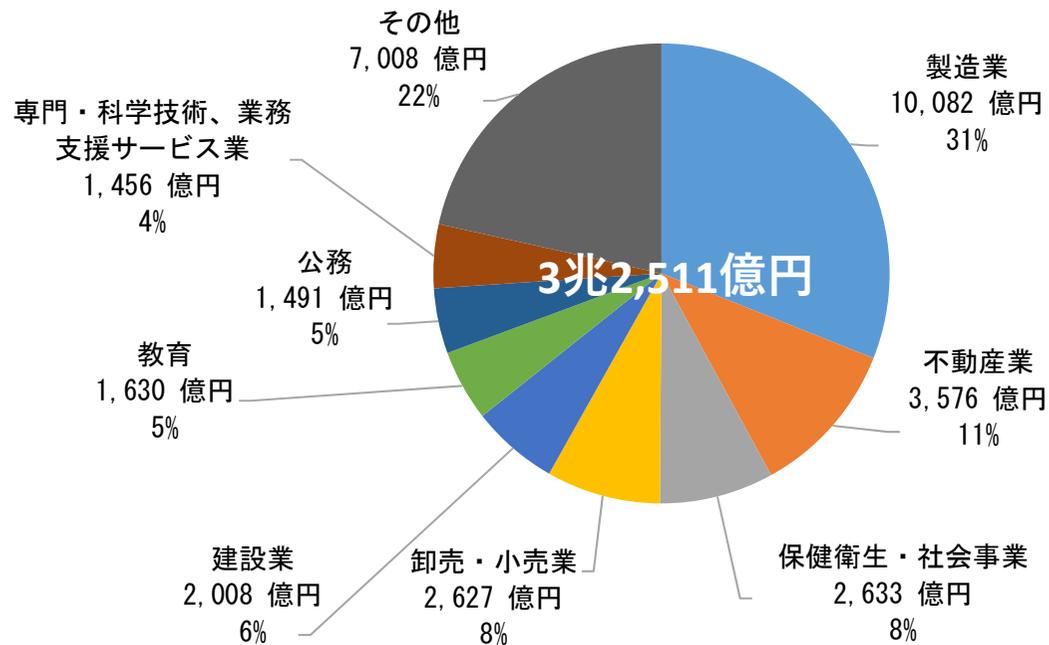
出典：2018年は「人口推計」(総務省統計局)、2045年は国立社会保障・人口問題研究所将来推計人口 (H30年3月発表)

山梨県の産業①

県内総生産

- 全国平均と比べて、第1次、第2次産業が高く、第3次産業が低い。
全国：第1次産業1.0%、第2次産業27.2%、第3次産業71.8%
本県：第1次産業1.7%、第2次産業37.5%、第3次産業60.8%
(製造業が県内総生産の1/4以上を占めている)

県内総生産の業種別構成比（平成27年度）



出典：経済センサス
県民経済計算年報

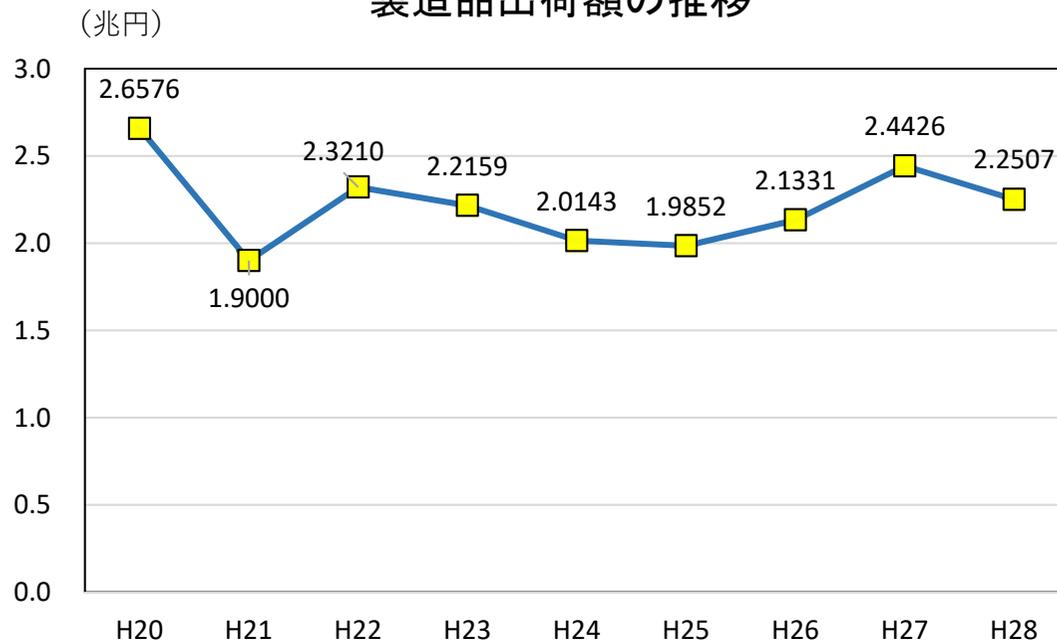
山梨県の産業②

製造業

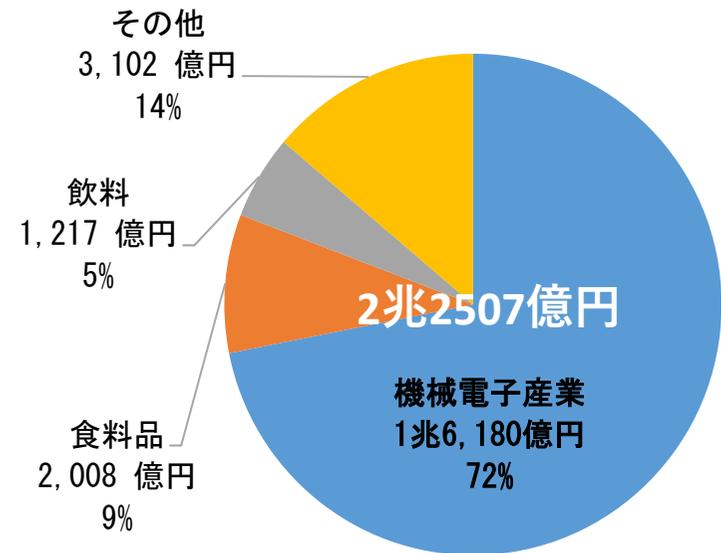
- 事業所数 1,764所 (平成29年6月1日現在、従業者4人以上の事業所)
- 従業者数 71,191人 (平成29年6月1日現在、従業者4人以上の事業所)
- 製造品出荷額 2兆2,506億8,200万円 (平成28年1年間の出荷額、従業者4人以上の事業所)

○本県の製造品出荷額等のうち、機械電子産業が72%を占めている

製造品出荷額の推移



産業分類別製造品出荷額 (平成28年)



出典：経済センサス
工業統計調査

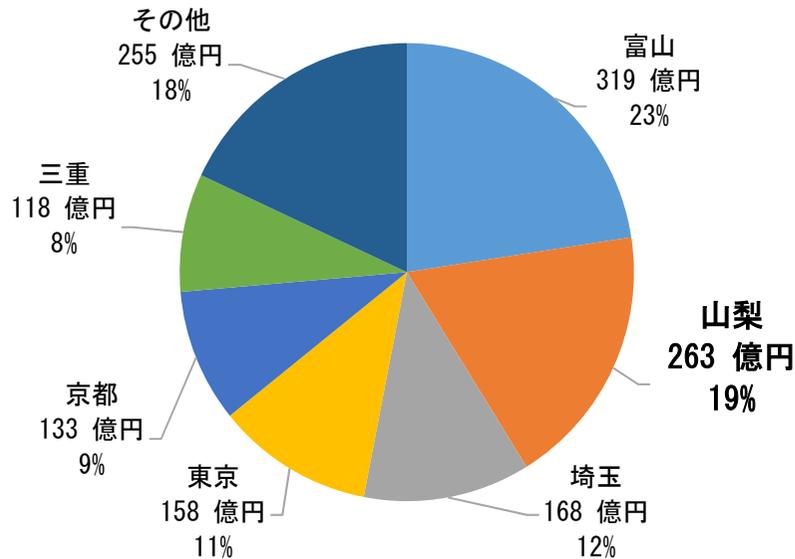
山梨県の産業③

地場産業

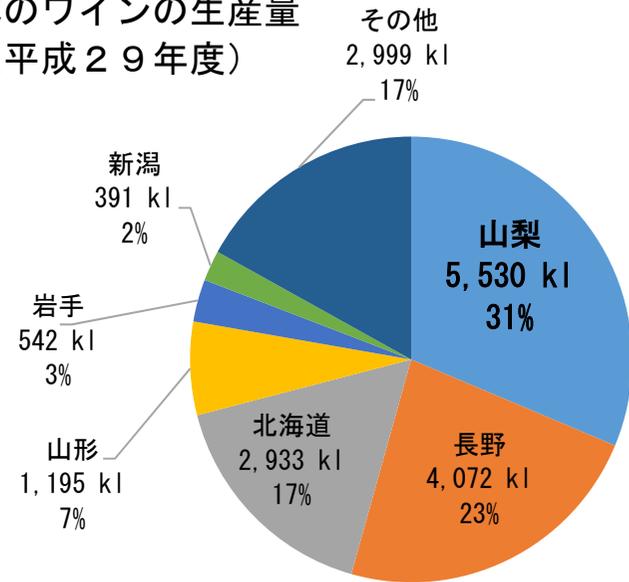
○ワイン、ジュエリー、織物などが代表的な地場産業

○日本ワイン、ネクタイ生地の生産量等は全国1位

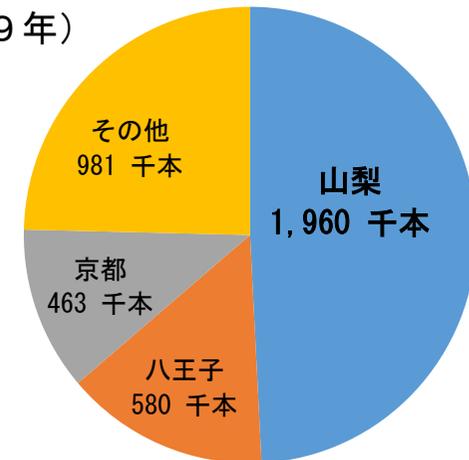
ジュエリー製造品出荷額（平成28年）



日本のワインの生産量
（平成29年度）



国産ネクタイ生地生産量
（平成29年）



出典：果実酒製造業者実態調査（国税庁）、日本ネクタイ実態調査（東京ネクタイ協同組合）、工業統計調査

山梨県の産業④

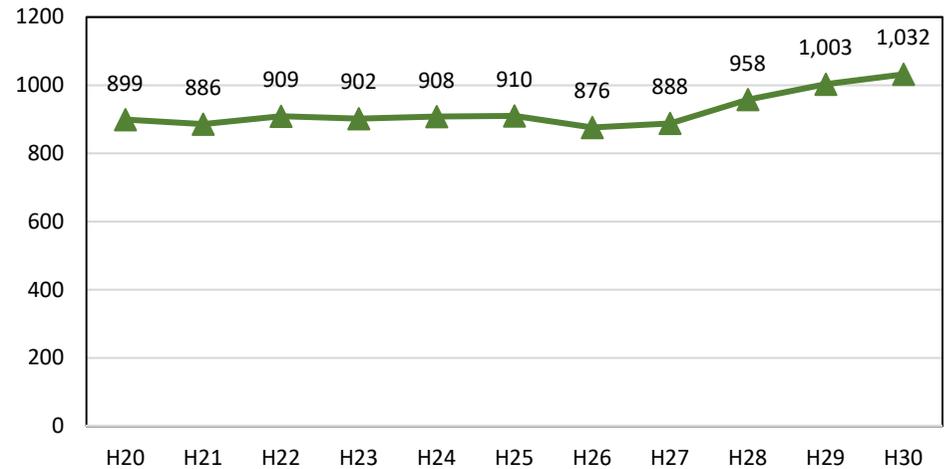
農業

○平成30年の県内の農業生産額は1,032億2,500万円で、平成27年から4年連続の増加となった。

【主要作物の状況】

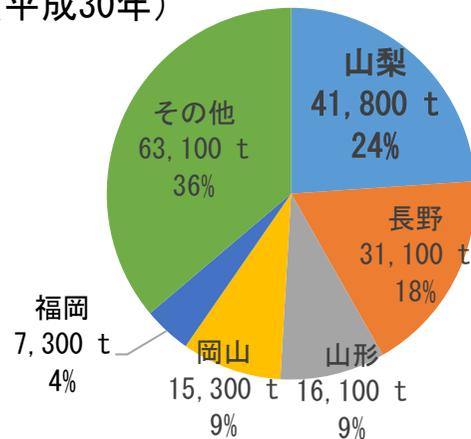
果実	607億1,000万円	(前年比 105.7%)	58.8%
野菜	142億3,700万円	(前年比 99.7%)	13.9%
畜産	134億6,400万円	(前年比 98.0%)	13.0%
米	65億1,900万円	(前年比 100.3%)	6.3%
花き	39億5,900万円	(前年比 95.8%)	3.8%

(億円) 農業生産額の推移

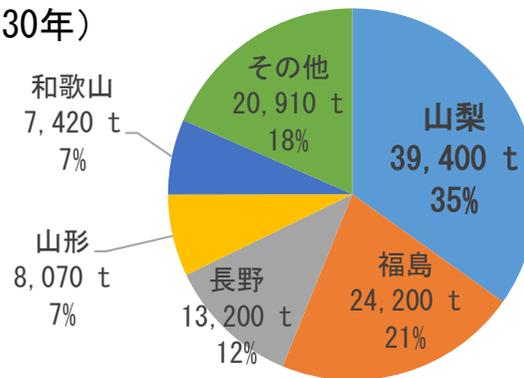


○ブドウ・モモ・スモモの生産量は日本一。

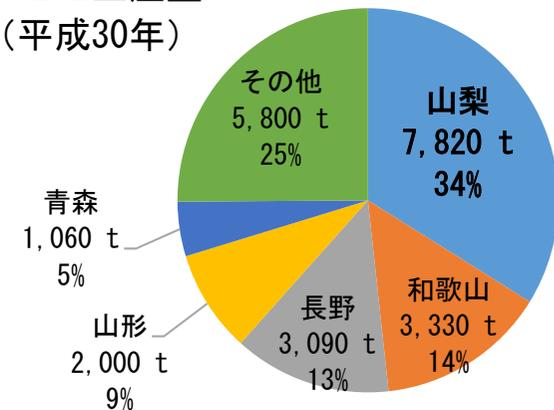
ブドウ生産量 (平成30年)



モモ生産量 (平成30年)



スモモ生産量 (平成30年)



出典：農業生産額実績は県農政部公表資料から作成。作物統計調査（農林水産省）

山梨の観光①

県内の主要な観光地

清里・小淵沢・ 韮崎エリア

避暑地の爽やかな気候の清里や、
名水で知られる白州・尾白川、八ヶ岳
アウトレットなどの人気スポットがある



明野のヒマワリ畑



清里高原

富士川流域・ 南アルプスエリア

和紙、印章、硯などの伝統工芸、
花火の産地として知られるエリア
下部温泉郷や日蓮宗総本山として
知られる身延山久遠寺がある



さくらんぼ



身延山久遠寺

甲府・昇仙峡エリア

歴史の古い温泉郷や国の特別名勝に
指定されている昇仙峡があるエリア



武田神社



昇仙峡

石和・勝沼・ 西沢渓谷エリア

石和温泉や国内屈指の渓谷美を
誇る西沢渓谷があるエリア
フルーツ狩りやワイナリーを
楽しむことができる



甲州ワイン



西沢渓谷

大月・都留エリア

東京都などに水を供給して
いる自然豊かなエリア
リニア実験線もこのエリア
にある



リニア見学センター



猿橋

富士山・富士五湖 エリア

富士山と富士五湖のある
全国有数のリゾート地

富士山



山中湖に映る
逆さ富士

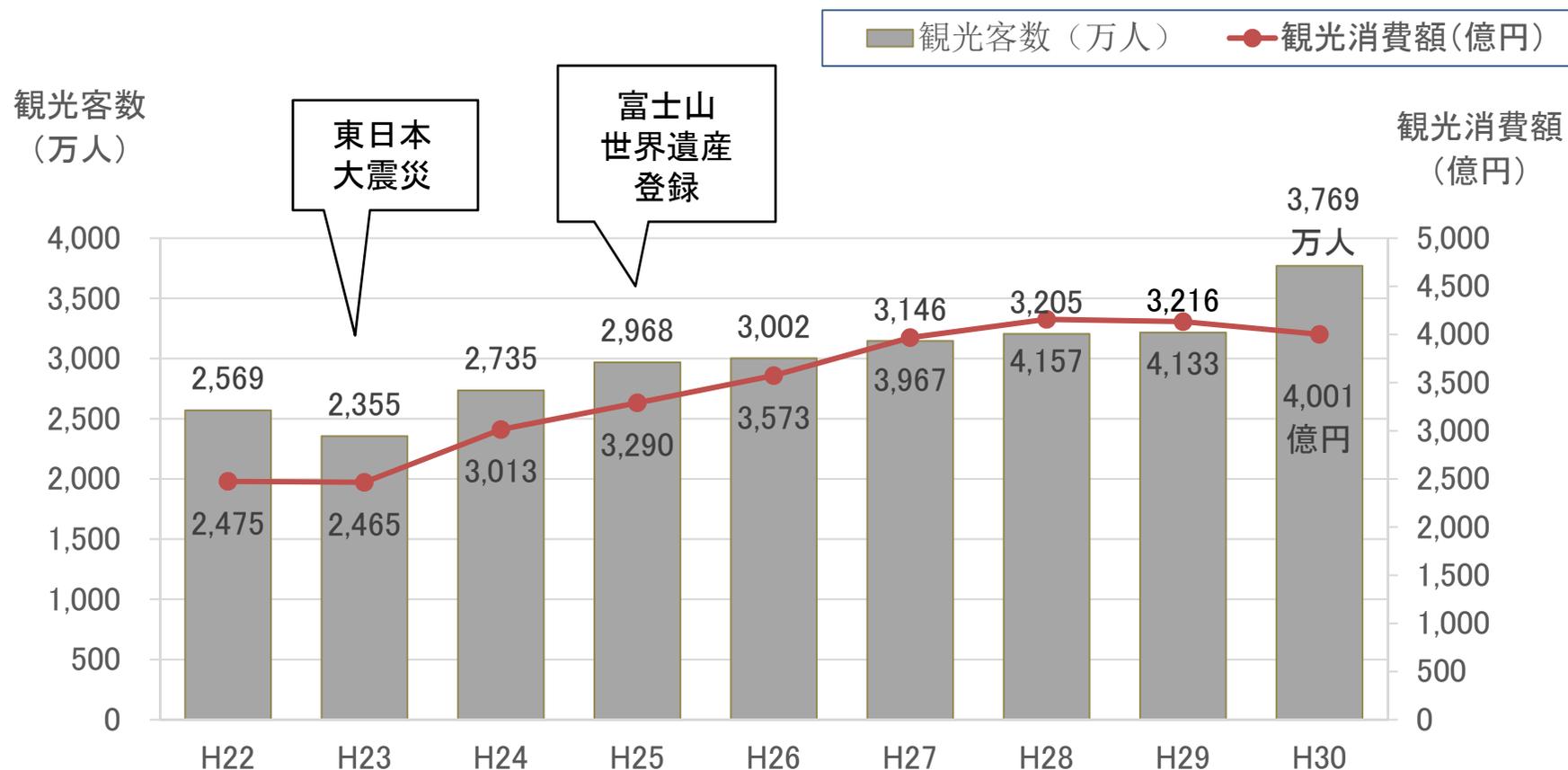


新倉山浅間公園

山梨の観光②

観光入込客数と観光消費額の推移

平成30年の県内の観光客数は、前年に比べて17.2%増え、現在の調査基準となった平成23年以降で最高となった。一方、平成30年の観光消費額は、前年に比べ3.2%減と2年連続の減少となった。

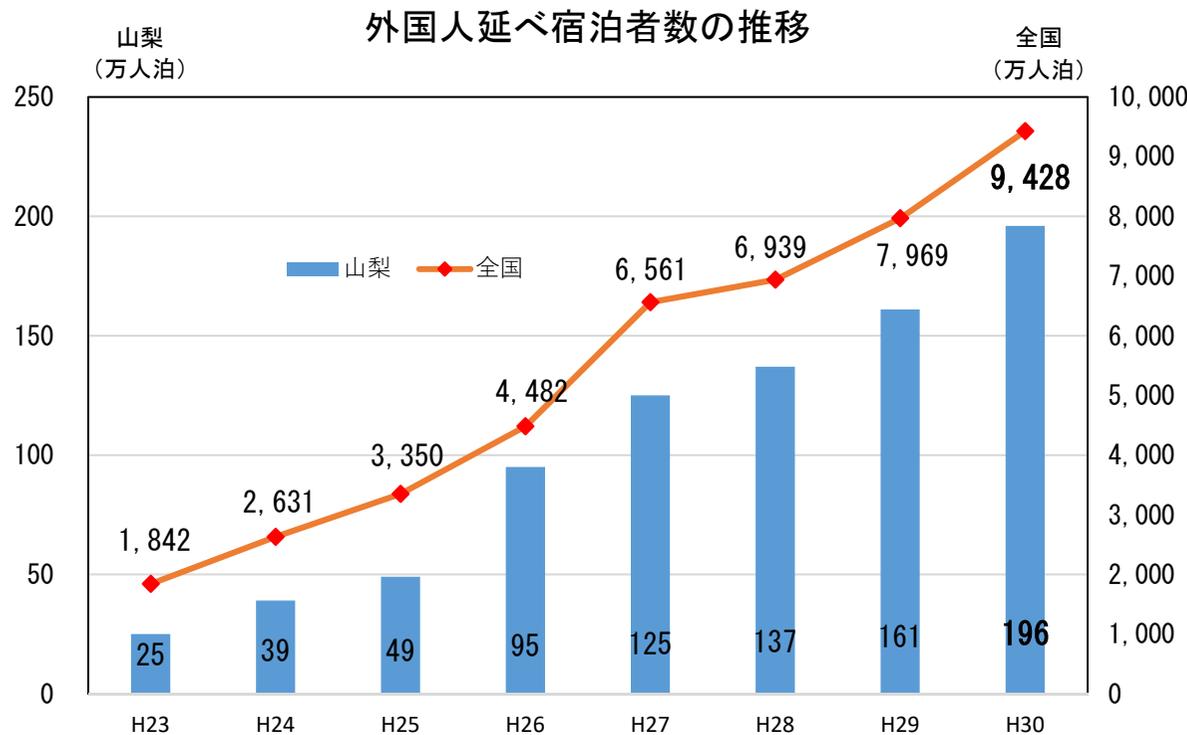


出典：H30山梨県観光入込客統計調査報告書

山梨の観光③

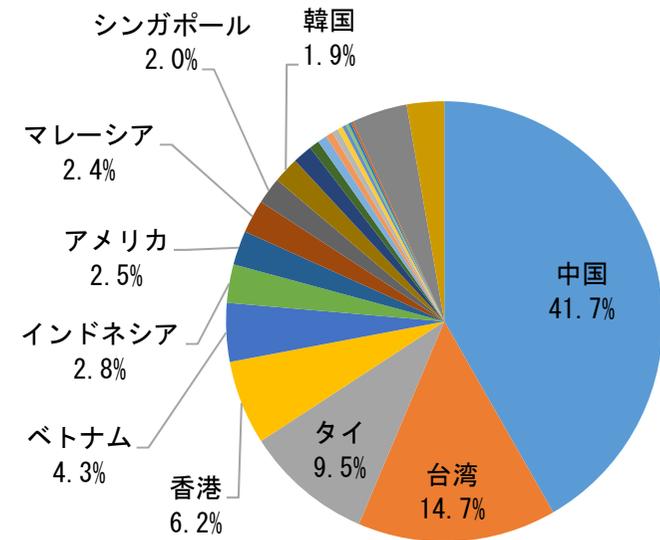
外国人延べ宿泊者数の推移と割合

平成30年の外国人延べ宿泊者数は、前年と比較して約35万人、約21.7%増の約196万人となった。国籍別構成としては、前年同様に、第1位が中国（41.7%）、第2位が台湾（14.7%）、第3位がタイ（9.5%）となり、上位3カ国で62.6%を占めたものの、その割合は昨年の68.3%から微減し、代わってベトナム等からの宿泊者数が増加するなど、国籍の多様化の動きが見られる。



外国人宿泊者の国籍別割合 (H30)

※従業者数10人以上の宿泊施設の集計

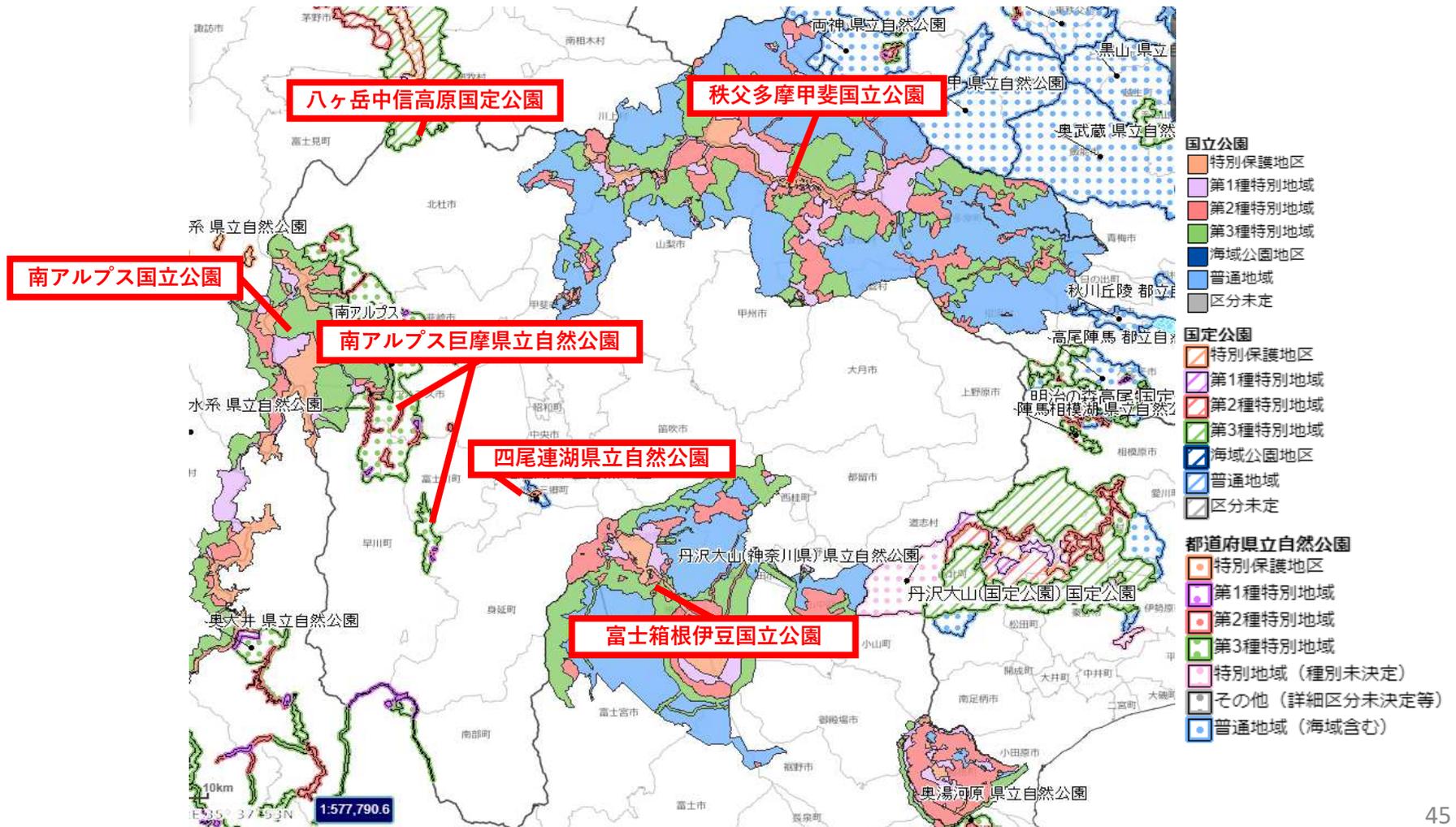


出典：観光庁宿泊旅行統計調査結果

山梨県の観光④

自然公園

本県における自然公園の面積は県土の27.1%を占めているとともに、平成25年6月に富士山が世界文化遺産に登録され、平成26年6月に南アルプス、令和元年6月に甲武信が、それぞれユネスコエコパーク（生物源保存地域）に登録されるなど、首都圏近郊にありながら、美しい自然に恵まれ、生物多様性に富む、貴重な生態系が広く保全されている。



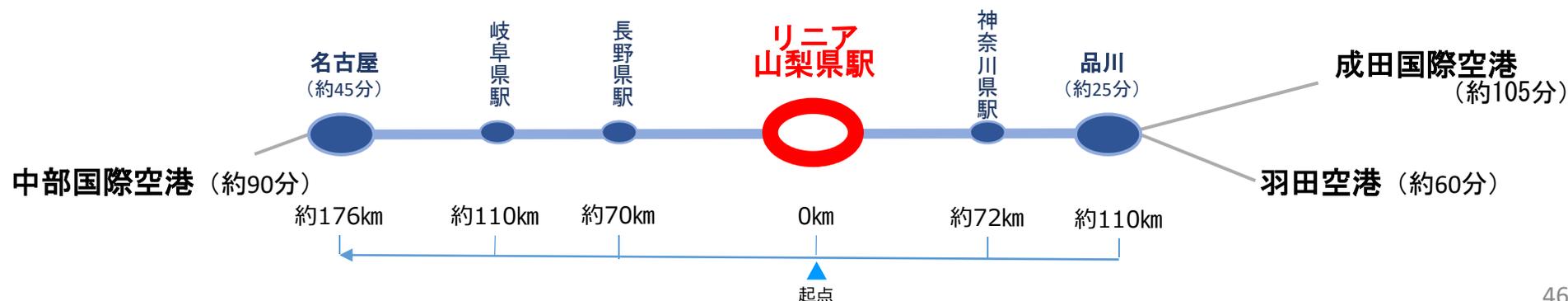
リニア沿線における比較①

各リニア駅の情報

	名古屋駅	岐阜県駅	長野県駅	山梨県駅	神奈川県駅	品川駅
駅所在地	名古屋市	中津川市	飯田市	甲府市	相模原市	港区
最寄り既存駅との距離	名古屋駅 (－)	美乃坂本駅 (約0.2km)	※飯田線乗換新駅 (約0.3km)	小井川駅 (約3.0km)	橋本駅 (約0.2km)	品川駅 (－)
駅タイプ	ターミナル駅 (地下)	中間駅 (地上)	中間駅 (地上)	中間駅 (地上)	中間駅 (地下)	ターミナル駅 (地下)
最寄りICとの直線距離	名古屋高速名駅入口 (0.5km)	中央道中津川IC (3.5km)	中央道(仮称)座光寺スマートIC (2.0km)	中央道(仮称)甲府中央スマートIC (駅直結)	圏央道相模原IC (4.8km)	首都高芝浦出入口 (2.0km)
品川駅からの所要時間	約40分 (直行タイプ)	約60分 (各駅タイプ)	約45分 (各駅タイプ)	約25分 (各駅タイプ)	約10分 (各駅タイプ)	－
名古屋駅からの所要時間	－	約15分 (各駅タイプ)	約25分 (各駅タイプ)	約45分 (各駅タイプ)	約60分 (各駅タイプ)	約40分 (直行タイプ)

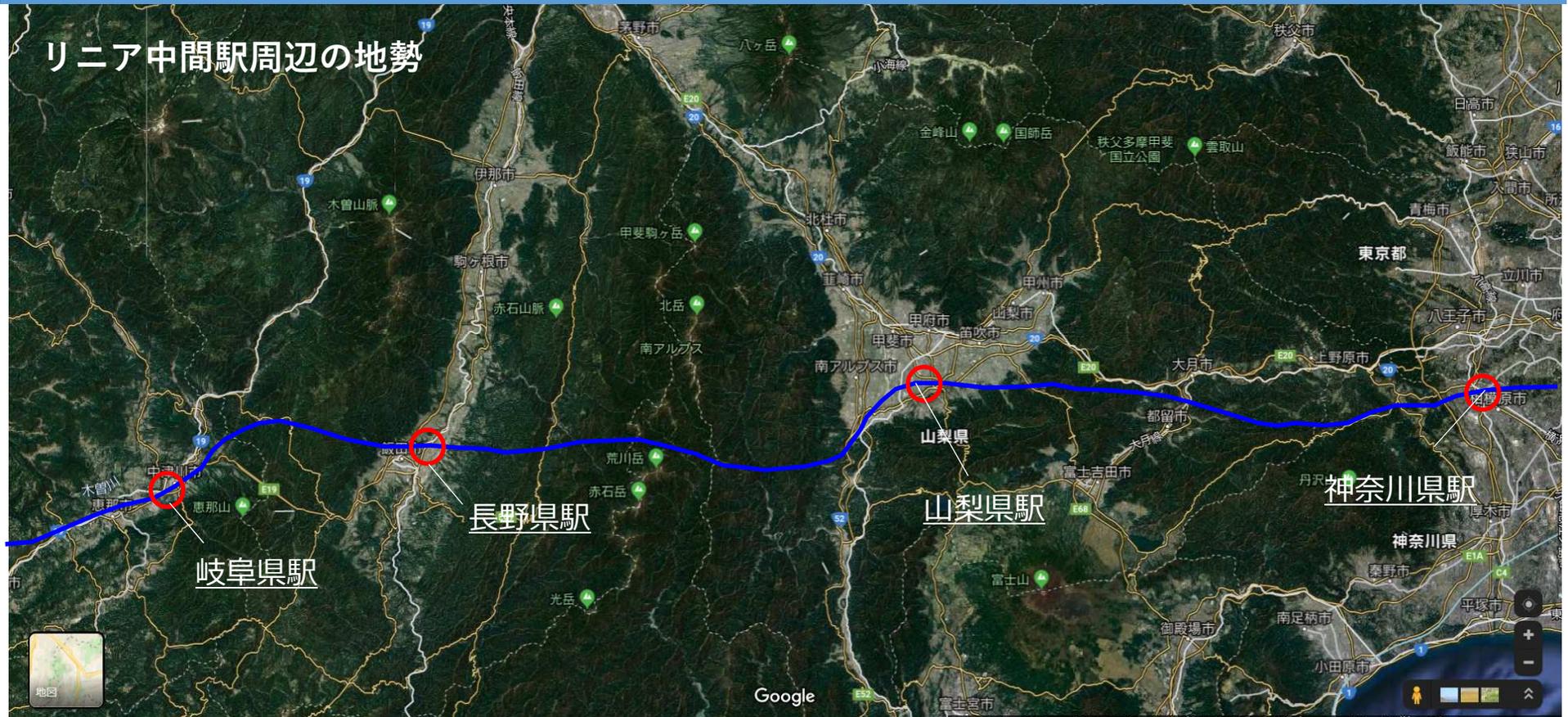
※ 現在、リニア長野県駅の近接地へJR飯田線乗換新駅の設置に向けた検討が進められている。

出典：所要時間はJR東海公表資料より。距離については地図上で実測。



リニア沿線における比較②

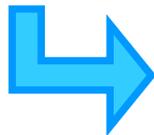
リニア中間駅周辺の地勢



(単位：%) 出典：GoogleMAP

用途別土地利用比率

(各リニア駅から20km圏)



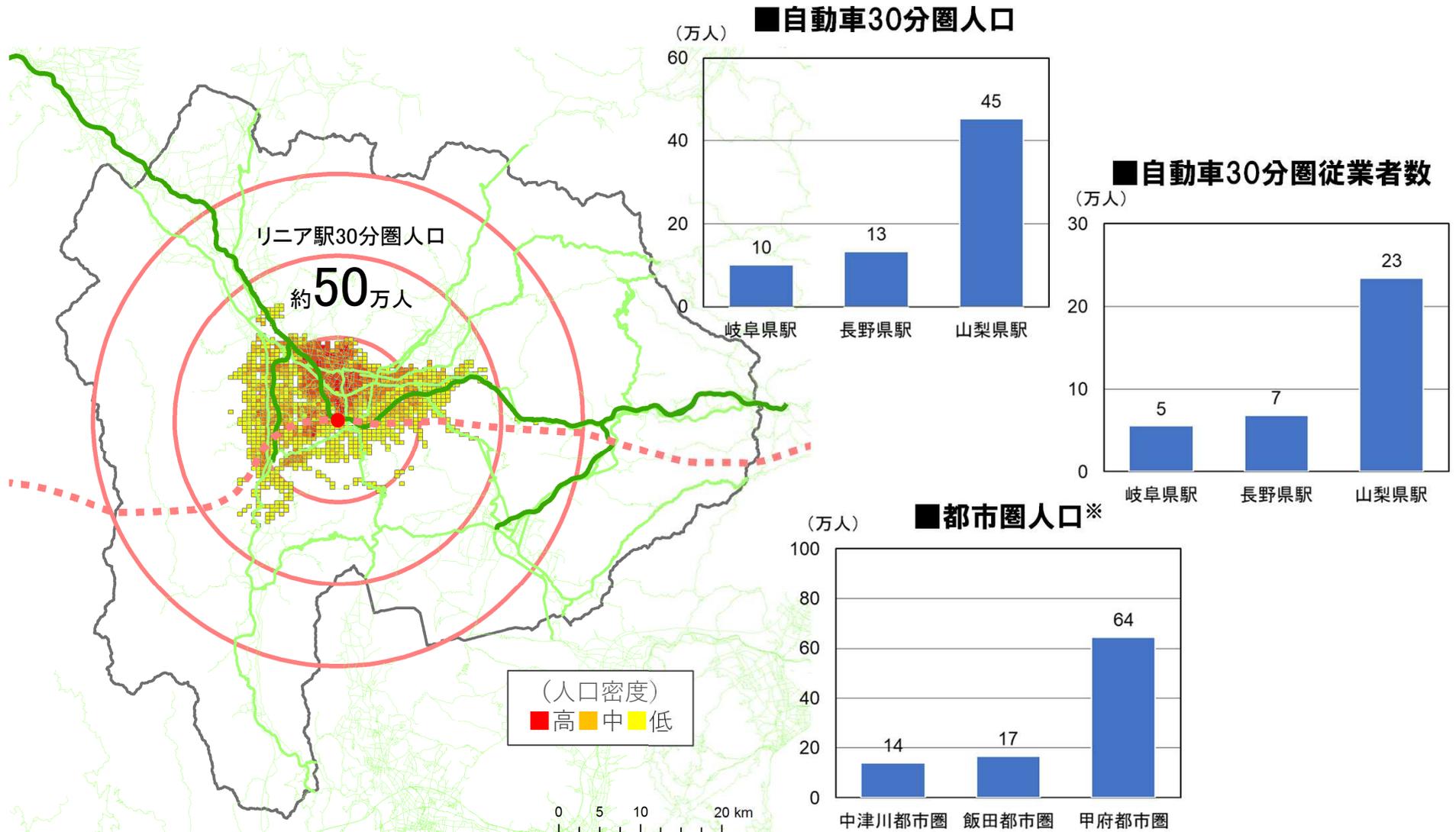
駅名	農用地	建物用地※	森林	その他計
神奈川県駅	6.9	43.5	35.4	14.2
山梨県駅	18.5	13.0	62.2	6.3
長野県駅	12.3	4.1	80.7	2.9
岐阜県駅	10.7	3.9	81.8	3.6

※ 建物用地：住宅地・市街地等で建物が密集しているところ

出典：国土数値情報H28より作成

リニア沿線における比較③

リニア駅周辺の人口分布（山梨・長野・岐阜）



出典：総務省「平成27年国勢調査」、総務省「H26経済センサス」
 ※都市圏人口は通勤通学率5%に含まれる市町村の合計

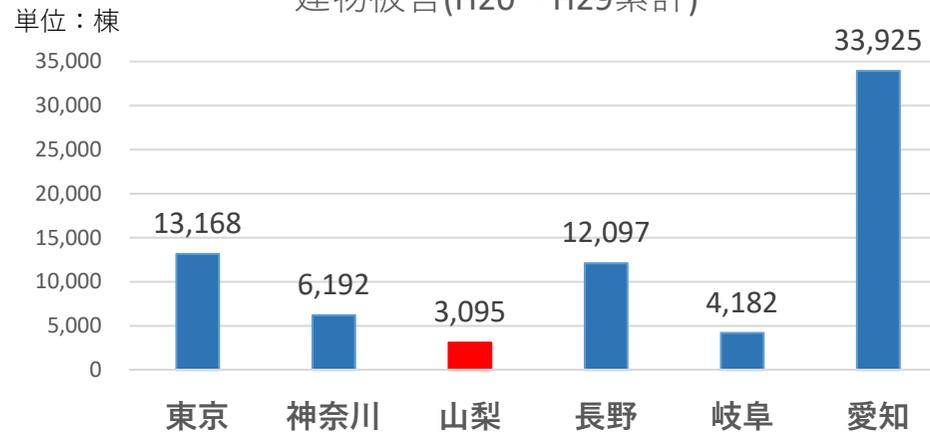
リニア沿線における比較④

過去の災害発生状況

- 近年においては大規模災害に見舞われていない

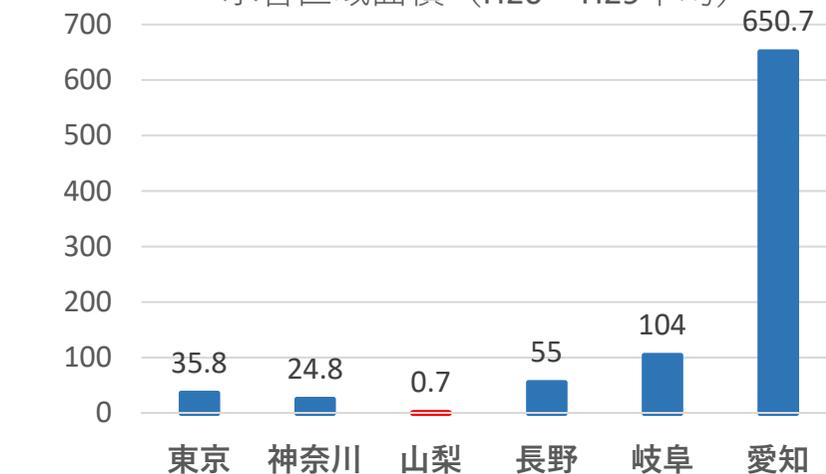
自然災害による都道府県別被害状況

建物被害(H20～H29累計)



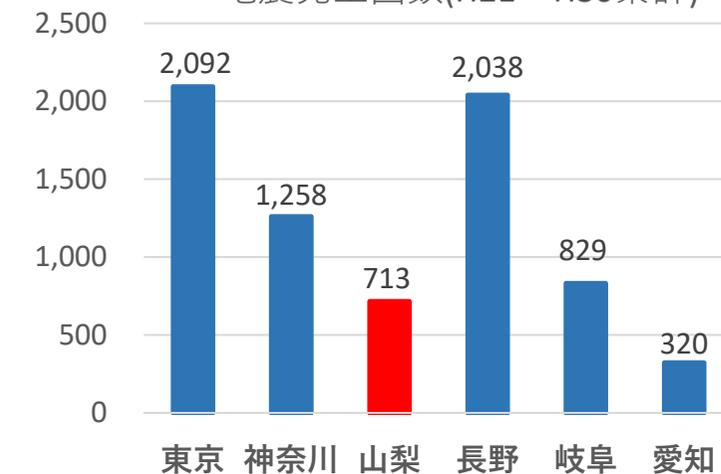
出典：消防白書[総務省消防庁]

水害区域面積 (H20～H29平均)



出典：水害統計調査[国土交通省]

地震発生回数(H21～H30累計)



出典：震度1以上の有感地震発生回数[気象庁データベース]

相模原や飯田の強み・取組み

○隣接するリニア駅のある相模原及び飯田の強み・取組みを以下に示す。



飯田の強み

- **豊かな自然、里山の暮らし**
 - ・中央アルプス、南アルプス、天竜川
- **多様なものづくり**
 - ・精密機械、金属加工、食品、水引
- **成長分野**
 - ・航空宇宙、メディカルバイオ
- **少量多品種の農作物**
 - ・市田柿、なし、りんご
- **食文化**
 - ・焼き肉、和菓子、五平餅、等

飯田のリニアを活用した取組み

- **全国の大学や研究者との連絡会議（学輪IIDA）**
 - ・多様な人材が地域と連携してまちづくりに参画する知のネットワークづくり ※学輪IIDA全国52大学113名のメンバーで構成される会議
- **研究開発・イノベーションの拠点作り**
 - ・産業振興と人材育成の拠点（エス・バード）の整備
 - ・中部圏を核とするアジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区やナレッジ・リンクの一翼を担う、田園型学術研究都市づくりに向けた取組
- **交流の一大拠点地域**
 - ・南信州広域連合が、コンベンションセンター・アリーナ等の整備、MICEの誘致やインバウンド対応による国際交流について検討
- **若者が帰ってこられる産業をつくる**
 - ・地域の産業を支える研究開発機能の拠点施設整備、等
- **人の流れをつくる（移住・定住・二地域居住）**
 - ・市内の市民農園の利用など農ある暮らしなど飯田ならではのライフスタイルの提案、等

出典：飯田市未来デザイン会議「飯田市未来ビジョン策定に向けた検討」（2015）
国土交通省「スーパー・メガリージョン構想検討会 最終とりまとめ」（2019）
飯田市「リニア駅周辺整備基本計画」（2017）

相模原の強み

- **良好な住環境と豊かな自然**
 - ・丹沢山地、相模川、相模湖
 - ・都心のベッドタウン
- **成長分野**
 - ・ロボット
- **製造業の集積**
 - ・電子回路、電気計測器などの電気機械系
 - ・半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置等の一般機械系
- **大学、研究機関が多数立地、製造業が集積**
 - ・大学は青山学院大学相模原キャンパスなど6校

相模原のリニアを活用した取組み

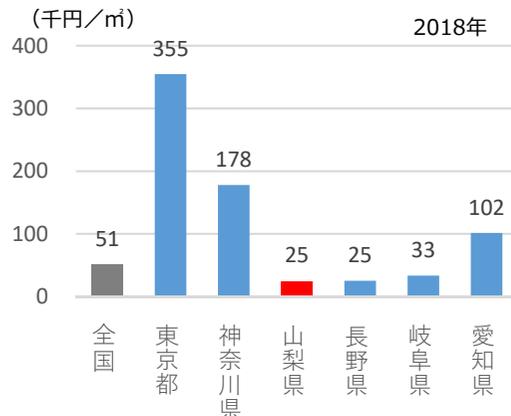
- **生活支援ロボットの実用に向けた研究開発や実証実験**
 - ・「さがみロボット産業特区」の取り組み
- **広域的な物流ネットワークや観光ルートの形成**
 - ・圏央道と高速バス等を活用した広域交通ネットワークの拠点となり、広域的な物流ネットワークや観光ルートを形成
- **まちづくり**
 - ・リニア駅が設置される橋本駅周辺地区と相模原駅周辺地区を一体の広域交流拠点とするまちづくり
- **橋本駅周辺：「産業の活力と賑わいがあふれる交流拠点の実現」**
 - ・リニア駅との近接性を活かして、産業交流施設（会議室、展示スペース等）、イノベーション拠点、大規模商業施設、ホール等を想定
- **相模原周辺：「安心とゆとりのある文化・行政が集積する中枢業務拠点の実現」**
 - ・相模総合補給廠一部返還地に、国際会議や企業研修などMICE誘致可能な床面積3～8ha規模のコンベンション施設を想定

出典：相模原市「さがみはら産業振興ビジョン」（2016）
国土交通省「スーパー・メガリージョン構想検討会 最終とりまとめ」（2019）
相模原市「相模原市広域交流拠点整備計画」（2016）

参考データ（立地・土地）

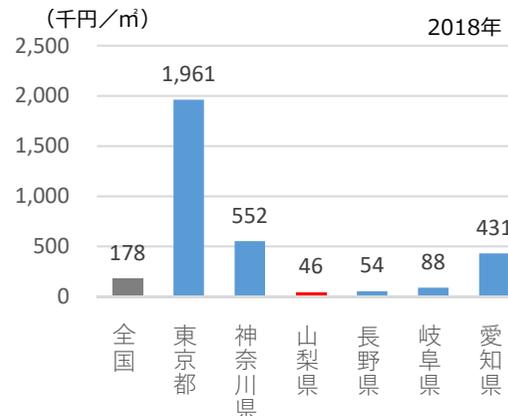
山梨県は全国・沿線地域と比較して、地価が安い。
 一方、耕作放棄地面積率や空家率は高い。
 県民一人当たり都市公園面積は全国を下回る。

【住宅地平均価格】



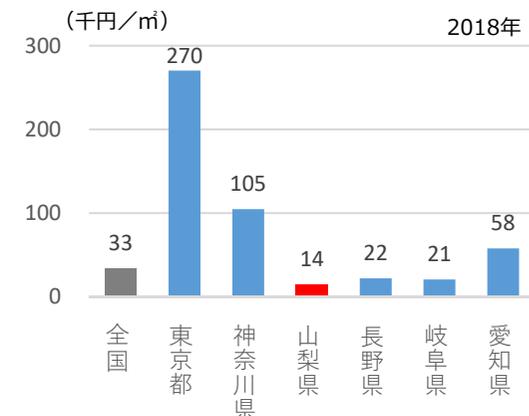
出典：国土交通省「都道府県地価調査」

【商業地平均価格】



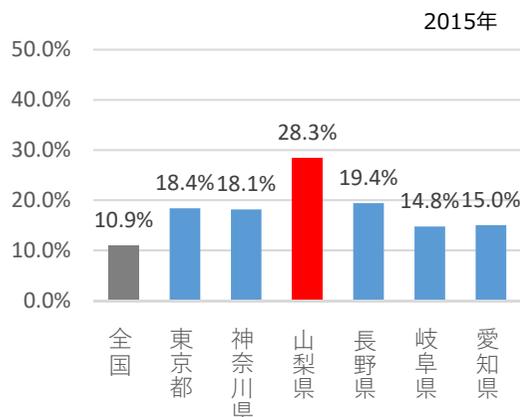
出典：国土交通省「都道府県地価調査」

【工業地平均価格】



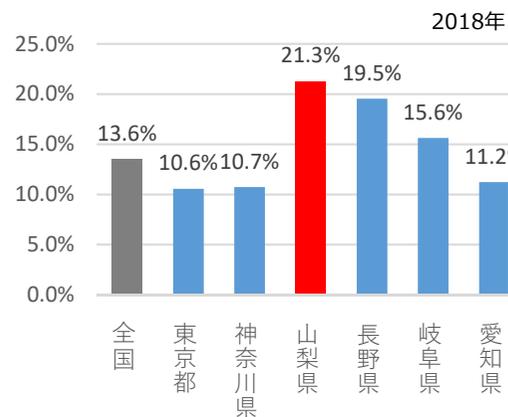
出典：国土交通省「都道府県地価調査」

【耕作放棄地面積率】



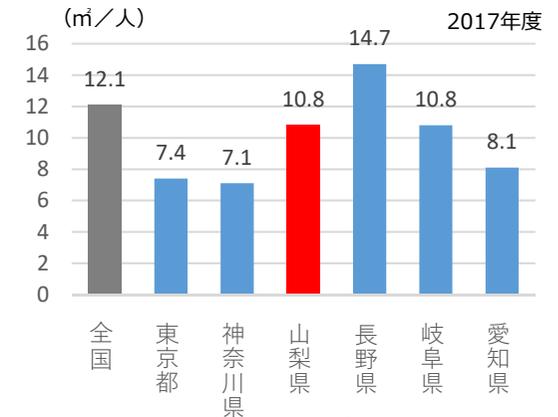
出典：農林水産省「農林業センサス」

【空き家率】



出典：総務省「住宅・土地統計調査」

【県民一人当たり都市公園面積】

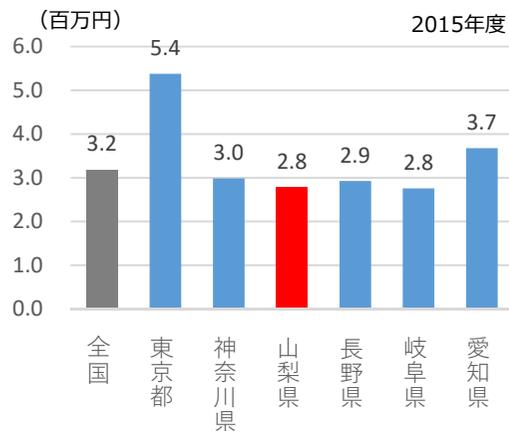


出典：国土交通省「都市公園データベース」
 ※政令市分は含まない。全国は都道府県計

参考データ（雇用・所得）

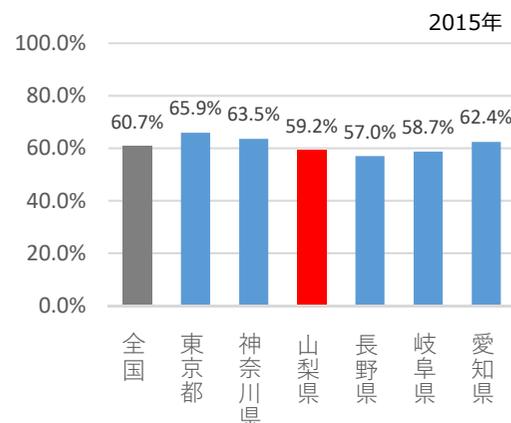
山梨県の一人当たり県民所得、生産年齢人口比率、有効求人倍率、最低賃金ともに、全国を下回る。
完全失業率、非正規雇用率は全国平均よりも高い。

【一人当たり県民所得】



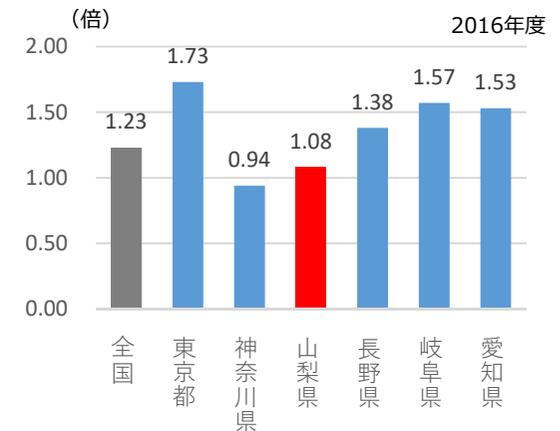
出典：内閣府「県民経済計算」

【生産年齢人口比率】



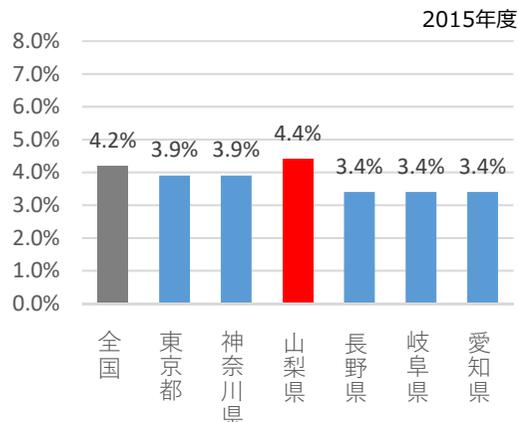
出典：総務省「国勢調査」

【有効求人倍率】



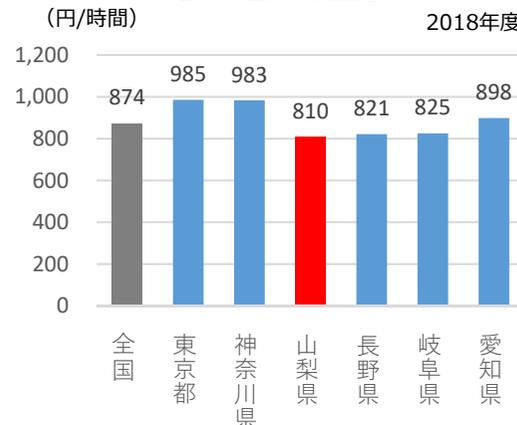
出典：総務省「都道府県データ社会生活統計指標」

【完全失業率】



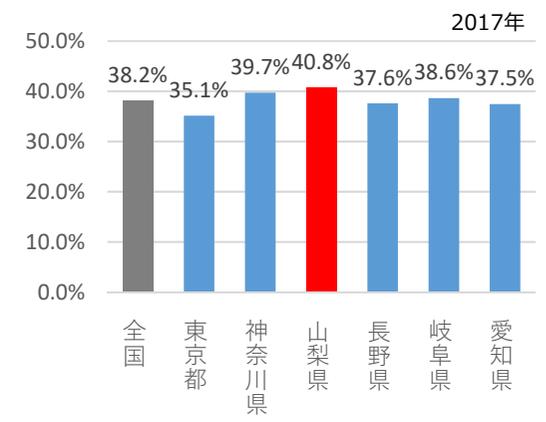
出典：総務省「都道府県データ社会生活統計指標」

【最低賃金】



出典：厚生労働省「地域別最低賃金改定状況」

【非正規雇用率】

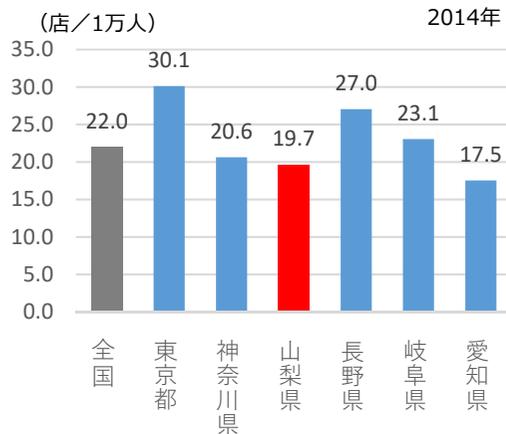


出典：総務省「就業構造基本調査」

参考データ（利便性・移動手段）

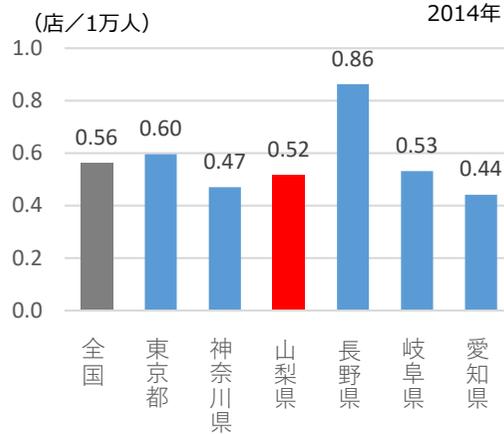
山梨県の人口当たり小売店数・大規模小売店数は全国平均をやや下回る。
 自家用車世帯当たり普及台数は相対的に高く、公共交通利用率は相対的に低い。
 通勤・通学時間は相対的に短い。

【人口当たり小売店数】



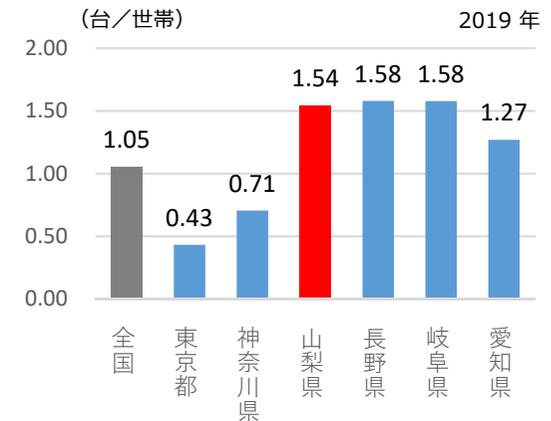
出典：経済産業省「商業統計」

【人口当たり大規模小売店数】



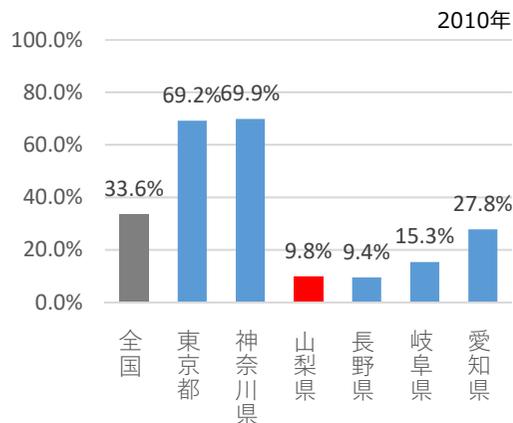
出典：経済産業省「商業統計」

【自家用車世帯当たり普及台数】



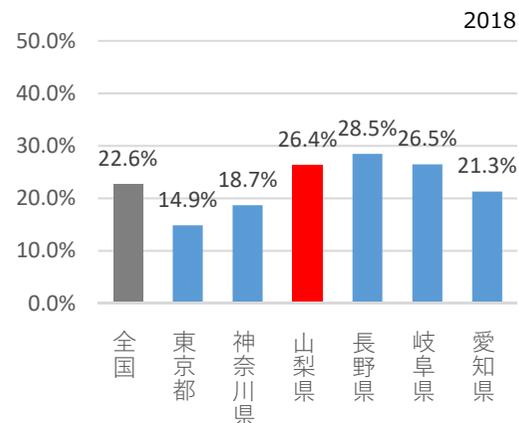
出典：（一般）自動車検査登録情報協会

【公共交通利用率】



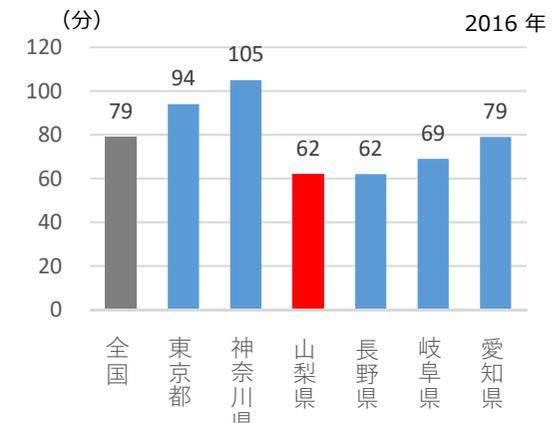
出典：総務省「国勢調査」

【運転免許証保有者高齢者割合】



出典：警察庁「運転免許統計」※高齢者：65歳以上

【通勤・通学時間】

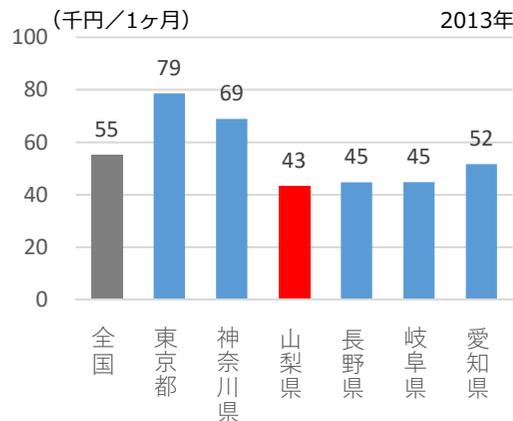


出典：総務省「平成28年社会生活基本調査生活時間-地域(調査票A)」

参考データ（居住・物価）

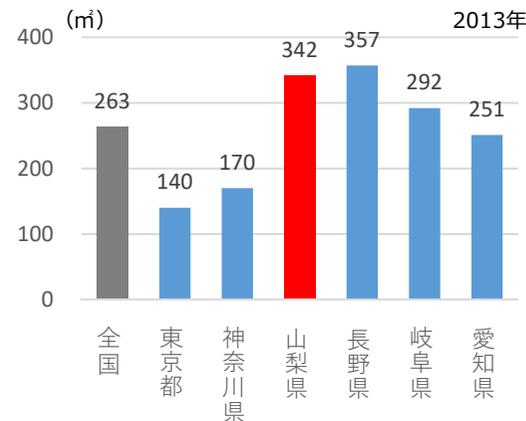
山梨県は1ヶ月あたり家賃・間代は安く、敷地面積は広い。
物価地域差指数をみると、総合は全国を下回る。特に、住居、教育は全国を下回り、被服及び履き物は全国を上回る。

【1ヶ月あたり家賃・間代】



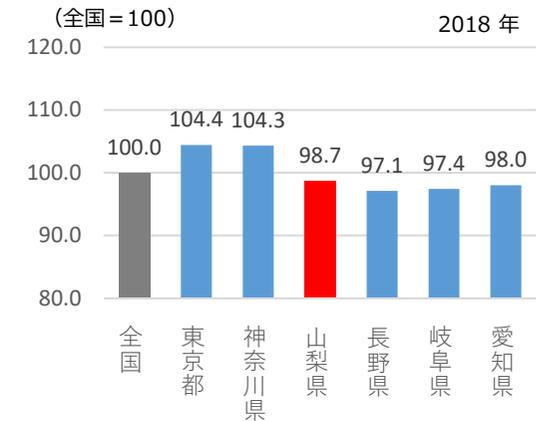
出典：総務省「住宅・土地統計調査」

【1住宅あたりの敷地面積】



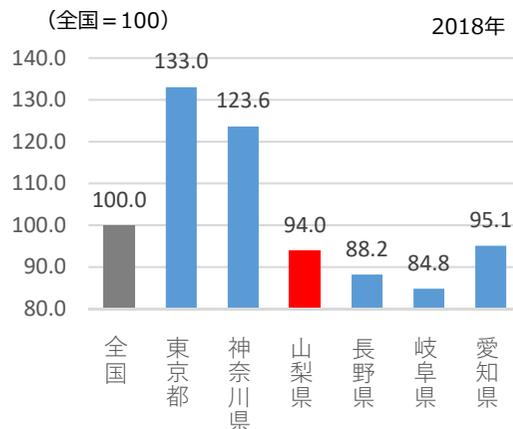
出典：総務省「住宅・土地統計調査」

【物価地域差指数（総合）】



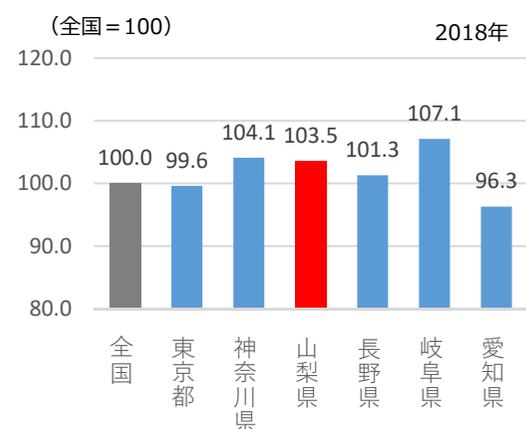
出典：総務省「小売物価統計調査」

【物価地域差指数（住居）】



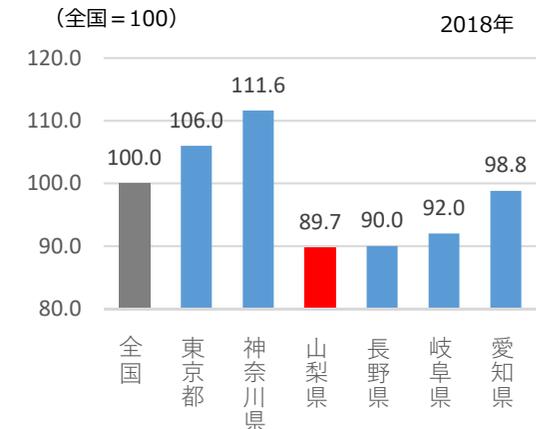
出典：総務省「小売物価統計調査」

【物価地域差指数（被服及び履物）】



出典：総務省「小売物価統計調査」

【物価地域差指数（教育）】

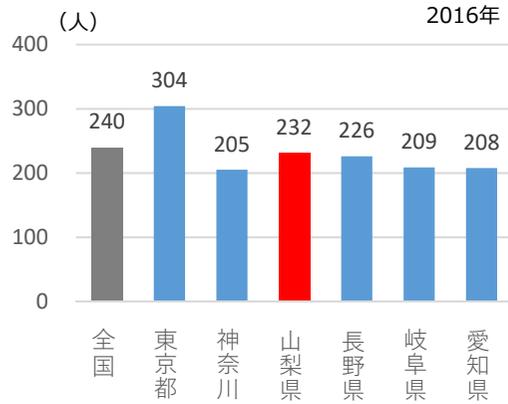


出典：総務省「小売物価統計調査」

参考データ（健康・教育）

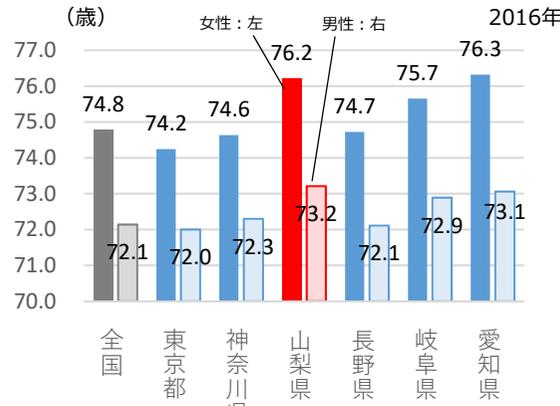
山梨県の10万人当たりの医師数、要介護認定割合は全国を下回り、健康寿命は全国を上回る。
 大学等進学率、100万人あたり図書館数は全国を上回る。待機児童数は0人。

【10万人あたり医師数】



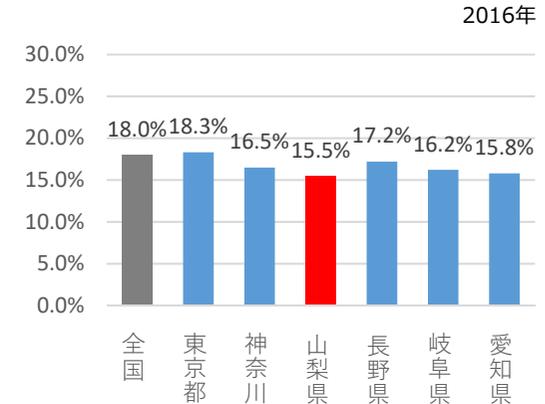
出典：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

【健康寿命】



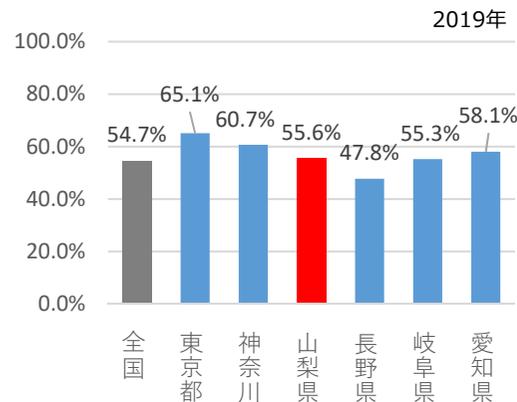
出典：厚生労働科学研究「健康寿命の全国推移の算定・評価に関する研究」

【要介護認定割合】



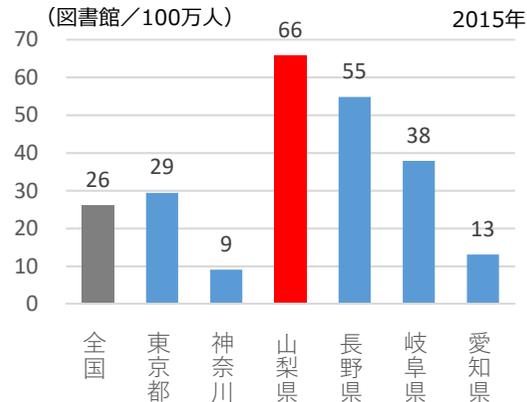
出典：厚生労働省「平成28年度介護保険事業状況報告（年報）」

【大学等進学率】



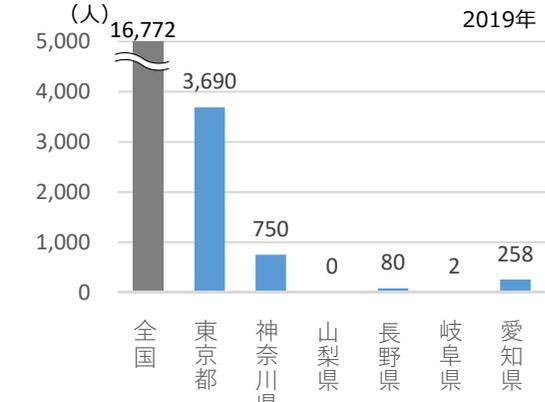
出典：文部科学省「学校基本調査」

【100万人あたり図書館数】



出典：文部科学省「社会教育調査」

【待機児童数】



出典：厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ(平成31年4月1日)及び「子育て安心プラン」集計結果を公表